

令和三年度

(2021 年度)

ダイバーシティ研究センター
報告書

令和 4 年 4 月

ダイバーシティ研究センター

内容

1. ダイバーシティ研究センター	3
a. はじめに	3
b. 事業内容	4
c. センター組織図	5
d. ダイバーシティ研究センター沿革	5
e. 運営委員会	6
f. 令和三年度構成員	6
2. 令和三年度活動報告	7
a. ダイバーシティ・インクルージョンに関する研究の実施	7
b. ダイバーシティ・インクルージョンの教育	8
c. 学内外におけるダイバーシティ・インクルージョンの推進	9
3. 令和三年度研究業績一覧	11
論文・著書	11
学会発表	14
講演会・研修	17
研究費・外部資金	23
社会連携・賞・その他（自治体委員・イベントアドバイザー等）	25

1. ダイバーシティ研究センター

a. はじめに

日本社会は、性別、国籍、民族、年齢などの属性や背景にかかわらず、誰もがその能力を最大限に発揮し、活躍できる社会を目指している。同時に、各分野で国際的な競争力を高めるために、これまで以上の新たな着想や変革が求められている。これらの課題に応えるには、多数派のライフスタイルや価値観を標準とした従来の制度や組織運営を改め、多様な価値観や文化背景をもつ人々が、それぞれにその個性と能力を活かし、革新的発想を生み出せるような仕組みづくりが必要である。

わが国の多くの企業等では、ダイバーシティを、「ワークライフバランスや障がい者雇用のように、マイノリティとされる人たちも雇用し、働ける制度をつくること」と解釈するに留まっており、福利厚生や企業の社会的責任と見なす場合が（現状では）多い。実際、多様な働き方を可能にするための制度づくりすら十分ではないのが日本の現状であるため、この視点も重要ではあるが、本来目指すべき状態とは、属性だけでなく価値観や知識など深層の多様性にも着目し、その多様性を積極的に受け入れ、活かすことによって、組織の生産性や革新に結びつけることである。この理念と戦略を **Diversity and Inclusion**（以下、ダイバーシティ・インクルージョン）という。しかし、このようなダイバーシティ・インクルージョンの実現については、世界的に見ても、学術的に探究されるべき課題が多く残っている。そもそも属性の多様性は、生産性ではなく葛藤や対立を促進し、メンバーのモチベーションを低下させる可能性も大きい。「生産性や革新」と「葛藤や対立」を分ける要因やそれを生産的な方向に向けるための介入方法など、学術的に解明すべき点は多い。しかし、特に日本では、ジェンダーや移民問題など、個別のマイノリティ集団に関する研究者は多いものの、「一つの組織や集団内で多様な属性を持つ人々がどのように革新的な業績を生み出し得るか」を実証的に研究する研究者は相対的に少なく、決して研究の盛んな領域とは言えない。また、ダイバーシティ・インクルージョン研究は主に経営学の領域において「企業従業員のダイバーシティ」に限定した研究が行われており、大学や学術界におけるダイバーシティに注目した研究は見当たらない。

広島大学は、男女共同参画、障がい学生支援（アクセシビリティセンター）、及び特別支援教育の分野で、日本の中でも先進的な業績を挙げてきた。この業績を基盤として広島大学が進むべき次のステップは、ダイバーシティ・インクルージョン推進の拠点となること、及び「メンバーの多様化から生じる問題に対処し、その多様性を生産性や革新的業績に結び付けられるような制度や風土を創出する知識とスキル」を備えた人材を育成することである。しかし、この課題は学内に現存する組織（男女共同参画推進室やアクセシビリティセンターなど）が扱える範囲を超えており、新たな学際的研究組織が必要である。このような経緯から、平成 28 年 4 月ダイバーシティ研究センターが設立された。

広島大学は、男女共同参画、障がい学生支援（アクセシビリティセンター）、特別支援教育の分野で、日本でも先進的な業績を挙げている。この業績を基盤として、広島大学が進むべき次のステップは、

- ① ダイバーシティ・インクルージョン推進の拠点となること（多様な価値観や文化背景、個性をもった人々がともに生きる社会で、一人一人の個性を活かし、その能力を発揮できるような組織・チームを管理運営するスキルやリーダーシップに関する研究を行う）
- ② そうしたスキルやリーダーシップ能力をもった人材を育成することである。

このステップのために、新たな学際的研究組織として、ダイバーシティ研究センターが設立された。

ダイバーシティ・アンド・インクルージョン

ダイバーシティ・アンド・インクルージョンとは日本では、ワークライフバランスや障がい者雇用のように、「マイノリティとされる人たちも雇用し働ける制度をつくること」を目指した動きが始まったばかりである。しかし本来は、単に「多様な人々が働ける環境を整える」ことに留まらず、価値観や知識など深層の多様性にも着目した上で、その多様性を積極的に受け入れ、活かすことによって、組織の生産性や革新に結びつけることを目指す必要がある。この理念と戦略を **Diversity and Inclusion**（ダイバーシティ・アンド・インクルージョン）と言う。

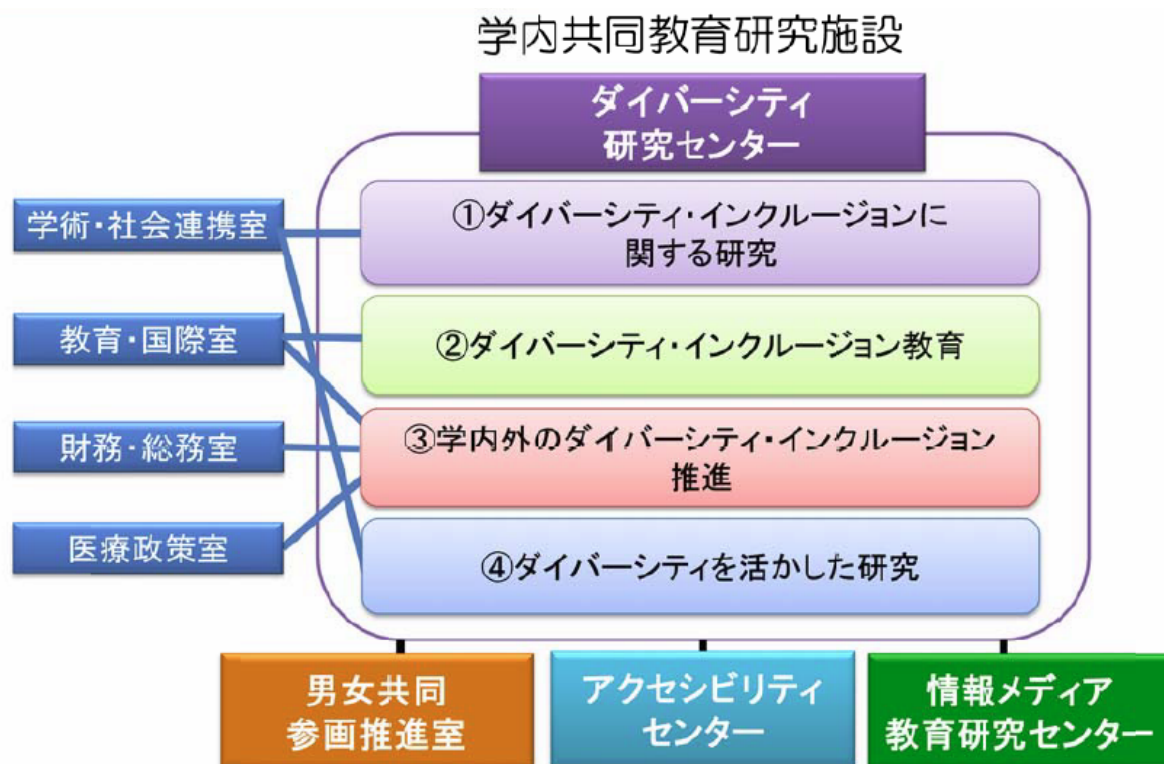
b. 事業内容

以下の内容を通じて、広島大学がダイバーシティ・アンド・インクルージョン推進の拠点となること、及び「メンバーの多様化から生じる問題に対処し、その多様性を生産性や革新的業績に結びつけられるような制度や風土を創出する知識とスキル」を備えた人材を育成することを目的とする。

<取り組み事業の概要>

1. ダイバーシティ・アンド・インクルージョンに関する学際的研究を行う
2. ダイバーシティ・アンド・インクルージョンのための知識とスキルを学生に教育する
3. 公開講座や企業向け研修など学内外におけるダイバーシティ・アンド・インクルージョンの推進と問題解決に貢献する
4. ダイバーシティを活かして創造的な研究を生み出す実践の場を提供する

c. センター組織図



d. ダイバーシティ研究センター沿革

- 平成 28 年 4 月 ダイバーシティ研究センター開設（センター長 坂田桐子教授）
- 平成 29 年 1 月 北梶陽子助教が着任
- 平成 29 年 5 月 大池真知子教授が着任
- 平成 29 年 7 月 関西大学酒井千絵准教授、高知大学佐藤洋子助教が連携研究者として加入
- 平成 29 年 9 月 高知工科大学上條良夫教授が連携研究者として加入
- 平成 30 年 4 月 大池真知子教授がセンター長に就任
- 平成 30 年 10 月 相馬敏彦准教授、中島健一郎准教授が協力教員として加入
- 平成 30 年 12 月 広島修道大学河口和也教授、大阪市立大学安達菜穂子研究員が連携研究者として加入
- 令和元年 8 月 櫻井里穂准教授、恒松直美准教授、デラコルダ川島ティンカ講師、長坂格准教授、中山亜紀子准教授が協力教員として加入
- 令和元年 9 月 山本幹雄准教授、坂本晶子助教、新本万里子教育研究推進員が協力教員として加入
- 令和 2 年 3 月 中村平教授が協力教員として加入
- 令和 2 年 9 月 金宰煜講師が協力教員として加入
- 令和 2 年 10 月 櫻井里穂准教授が着任、ペンシルバニア州立大学 Gerald LeTendre 教授、上智大学杉村美紀教授が特別顧問に就任
- 令和 3 年 3 月 白川俊之准教授が協力教員として加入
- 令和 3 年 5 月 鳴門教育大学眞野豊准教授が連携研究者として加入

e. 運営委員会

氏名	所属・職名
大池真知子	ダイバーシティ研究センター（同センター長）教授
片柳真理	人間社会科学研究科 教授（国際法、平和構築論）
中井智司	先進理工系科学研究科 教授
橋本俊也	統合生命科学研究科 准教授
藤井万紀子	医系科学研究科 教授
坂田桐子	人間社会科学研究科 教授（社会心理学、ダイバーシティ、リーダーシップ研究）
櫻井里穂	ダイバーシティ研究センター 准教授
仲 一仁	原爆放射線医科学研究所 准教授
西村浩二	情報メディア教育研究センター（同センター長） 教授
山本幹雄	アクセシビリティセンター 准教授

f. 令和三年度構成員

センター長 大池真知子（教授：アフリカ文学）

専任教員 櫻井里穂（准教授：比較教育学）
北梶陽子（助教：社会心理学）

協力教員 坂田桐子（人間社会科学研究科 教授：社会心理学）
森永康子（人間社会科学研究科 教授：社会心理学）
相馬敏彦（人間社会科学研究科 准教授：社会心理学）
中島健一郎（人間社会科学研究科 准教授：社会心理学）
片柳真理（人間社会科学研究科 教授：国際関係論）
相原玲二（情報メディア教育研究センター 教授：副学長）
相田美砂子（学術・社会連携室 特任教授）
河本尚枝（人間社会科学研究科 准教授：福祉社会学）
恒松直美（森戸国際高等教育学院 准教授：国際教育、教育社会学、ジェンダー研究）
デラコルダ川島ティンカ（人間社会科学研究科 講師：宗教社会学）
長坂格（人間社会科学研究科 教授：文化人類学）
中山亜紀子（人間社会科学研究科 准教授：日本語教育）
山本幹雄（アクセシビリティセンター 准教授：物性物理学、教育アクセシビリティ学、アクセシビリティ支援学）
坂本晶子（アクセシビリティセンター 助教：物性物理学、教育アクセシビリティ学、アクセシビリティ支援学）
新本万里子（アクセシビリティセンター 教育研究推進員：文化人類学、アクセシビ

リティ支援学)

中村平 (人間社会科学研究科 教授: 歴史文化論、ポストコロニアル)

金宰煜 (人間社会科学研究科 講師: 管理会計学)

白川俊之 (人間社会科学研究科 准教授: 教育社会学)

連携研究者 佐藤陽子 (高知大学 講師: 社会学)

酒井千絵 (関西大学 教授: 社会学)

上條良夫 (早稲田大学 教授: 経済学)

河口和也 (広島修道大学 教授: 社会学)

安達菜穂子 (社会心理学)

眞野豊 (鳴門教育大学 准教授: 社会学)

特別顧問 Gerald LeTendre (ペンシルバニア州立大学・教育政策部長・教授)

杉村美紀 (上智大学・グローバル化担当副学長・教授)

2. 令和三年度活動報告

a. ダイバーシティ・インクルージョンに関する研究の実施

(1) 研究実施体制の展開

- ・ 令和三年 5 月鳴門教育大学眞野豊准教授 (社会学) が連携研究者として加入し、協力体制を構築した。

(2) 企業との共同研究

- ・ 平成 29 年度採択の科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (牽引型)」の事業の一環として、組織のダイバーシティ実現モデルの開発を目的とし、共同実施機関やメンバー機関の企業と共同で調査を進めた。

(3) センター独自研究

- ・ 令和四年 2 月に、広島県における施策提言を目的として、ジェンダー&セクシュアリティに関するオンラインアンケート調査を実施し、広島県の 3000 名から回答を得た。
- ・ 令和四年 3 月に、ジェンダー、性、民族、文化、年齢、障がい、病いといった多様な次元に対する偏見や態度の関連と影響を明らかにするために、ダイバーシティ&インクルージョンに関するオンラインアンケート調査を実施し、全国の 1000 名から回答を得た。

(4) ひろしま多文化研究会の実施

- ・ 令和三年 6 月 15 日 (火) 16:30-18:20 に「第 11 回研究会」を実施し、広島県庁地域政策局国際課 (参事) の山本浩様より「広島県の外国人材受入・定着に向けた取組」、ノートルダム清心女子大学二階堂裕子教授より「なぜ「技能移転」が進まないのか——技能実習生の最大の送出国ベトナムの視点から」の話題を提供していただき、意見交換を行った。

- ・ 令和三年 9 月 21 日（火）17:00-19:30 に「第 12 回研究会」（オンライン）を実施し、広島大学長坂格教授（協力教員）より「移民政策をフィールドワークする」、静岡県立大学高畑幸教授より「静岡県における行政の多文化共生施策と外国ルーツ職員の存在に関する予備的考察」の話題を提供していただき、意見交換を行った。
- ・ 令和三年 12 月 13 日（月）16:40-18:30 に「第 13 回研究会」（オンライン及び対面）を実施し、広島国際学院大学崔博憲教授より「日本を目指すタイ人労働者の変容から見えること」、福山市立大学上別府隆男教授より「びんご多文化共生連続ワークショップの成果と課題」の話題を提供していただき、意見交換を行った。

(5) CEDAR 広島研究会の動画公開

- ・ 令和三年 3 月 8 日（月）9:00-11:00 に実施した「ダイバーシティセミナー 「異なる文化と生きるために」」（オンライン、主催：ダイバーシティ研究センター、広島大学インキュベーション研究拠点「ダイバーシティ&インクルージョン科学の理論と実践のための研究拠点」、講師：セリグマン教授（ボストン大学、CEDAR 代表））の動画を公開した。また、時間の都合で回答ができなかった質問の回答を文面で公開した。

(6) CEDAR 広島の準備

- ・ 令和五年にワークショップを実施するための準備を進めた。令和四年に学内で予備的なワークショップを実施するための企画会議を、CEDAR 長崎代表の福田美智子氏の協力を得て実施した。2 月 17 日、3 月 8 日、3 月 18 日、3 月 28 日。

(7) その他研究活動

「3. 令和三年度研究業績一覧」（後述）にあるように、各研究者が独自の研究課題を遂行した。

b. ダイバーシティ・インクルージョンの教育

(1) 特定プログラム「ダイバーシティ特定プログラム」

- ・ 令和 2 年度より開講した「ダイバーシティ特定プログラム」に関して、基礎的な必修科目として「ダイバーシティ概論」（教養教育社会連携科目としても開講）を実施するとともに、発展的な必修科目「ダイバーシティ演習」の準備を進めた。
- ・ ターム終了時には履修生が教員と共に互いの学修状況を共有する会を開催し、プログラムの修了に向けたサポートを行なった。4 月 20 日（初回顔合わせ）、6 月 29 日&7 月 2 日（1 ターム振り返り）、10 月 6 日&10 月 8 日（2 ターム振り返り）、12 月 3 日&8 日（3 ターム振り返り）。3 年度の振り返りは 4 年度 4 月 6 日の顔合わせ会と兼ねた。
- ・ 令和四年 1 月 21 日（金）には特定プログラムに関する学部 1 年生向けの説明会（オンライン）を実施した。
- ・ 特定プログラムの企画運営のために、全学の学務委員会に参加した。

(2) 大学院共通科目「ダイバーシティの理解」を開講

令和元年度より開設された大学院共通科目の持続可能な発展科目群に 1 単位分の講義として実施し

た。ワーキング・グループに参加し、企画と実施に携わった。

(3) 教養的教育科目「大学教育入門」(全学必修)を開講

令和2年度より再開講し講義を実施した。ワーキング・グループに参加し、企画と実施に携わった。

(4) 教養教育平和科目「ひろしま平和共生リーダー概論」(COC 事業関連)でセンターが1コマ担当し、7月27日(月)に大池真知子教授が実施した。

(5) ジェンダーに関する読書会の実施

希望する学生とジェンダーやセクシュアリティについての読書会を月3回程度で実施した。

(6) その他のダイバーシティ教育の実施

教養教育科目「ジェンダーと社会」、「平和を考える」、総合科学部専門科目「ジェンダー学1,2」、総合科学研究科専門科目「異文化理解」などの授業を通じて、ダイバーシティについての教育を実施した。

c. 学内外におけるダイバーシティ・インクルージョンの推進

(1) 公開講座・セミナー・イベントの実施

- ・ 令和三年9月22日(水)に性と障がいテーマにした映画「虹色の朝が来るまで」の上映会を実施(主催:広島大学ダイバーシティ研究センター&広島LGBTsサークルLight、公開日時:9月22日(水)9:00-23:59)。教養科目「ダイバーシティ概論」で視聴すると同時に、学内限定でオンデマンド公開した。
- ・ 令和四年1月30日(日)15:00-17:30および2月19日(土)15:00-17:30講演会・学習会シンポジウム「在外被爆者を含んだ被爆体験とその継承—豊永 恵三郎さんの運動—」(オンライン、主催:広島大学比較日本文化学プロジェクト研究センター、共催:広島大学平和センター、ダイバーシティ研究センター、教育ヴィジョン研究センター(EVRI)、話者:豊永恵三郎氏、聞き手(司会):中村平教授(広島大学大学院 人間社会科学研究科人文学プログラム・比較日本文化学プロジェクト研究センター)、対談:1月30日ファンデルドゥース・ルリ准教授(広島大学平和センター・大学院人間社会科学研究科平和共生プログラム)、2月19日許光茂(ホ・グァンム)氏(一橋大学博士、「日帝動員&平和研究会」研究委員))を開催した。
- ・ 令和四年3月7日(月)16:30-19:30にブータンとスリランカのインクルージブ教育についてのセミナーをオンライン(Zoom)で実施(主催:広島大学・熊本大学)。本国際セミナーは、ダイバー研櫻井准教授(センター准教授)および古田教授(熊本大学)の企画により、櫻井里穂(広島大学)、Mr.Karma Norbu (Sr.Programme Officer, SEN Programme, Dept. of Education, Ministry of Education)、Mr.Dorji Wangdrup (Principal at Muenselling Institute)、Mr.Dechen Tshering, Principal at Wangsel Institute)、川合紀宗教授(広島大学)、Facilitator-Prof. Prasad Sethunga (University of Peradeniya)、Mr. Kumuduni Abeyruwan (Principal at

Senkadagala S.S.)、Mr. S.W.Y.B.S.K. Beddewela (Principal at Mahinda Special Education Model School)、Ms. Namalika Dissanayake(Principal at Blue Rose S.S.)、Prof. Paul Lynch (University of Glasgow)、古田 弘子教授(熊本大学)が登壇した。第一部ではブータン(「ブータンのインクルーシブ教育と特別支援学校」、第二部ではスリランカ(「スリランカの特別支援学校の声」、第三部では総括セッション(「低所得国・中所得国の状況報告」)についてお話を伺った。

- ・ 「教室の窓(2022年1月号)」(特集テーマ「ダイバーシティ&インクルージョン」)に櫻井里穂准教授が総論を寄稿した。
- ・ Body Mapping を社団法人 HAP の職員と協力し、広島市心身障害者福祉センターの文化教室「わくわくアート教室」(7月17日と10月31日)で実施した。障がいのある子ども、そのきょうだい、親が協働して、家族で1枚のマップを制作した。作品は、上記センターの「2021文化祭」(12月4日～5日、主催は上記センター、広島市、広島市社会福祉事業団)で展示した。
- ・ Body Mapping を市民団体「世界の子どもの平和像(せこへい)をつくる会ヒロシマ」と協力し、「広島高校生平和ゼミナール」の高校生対象に実施した。作品は「せこへい美術館 2021」(8月17日～22日@旧日銀広島支店ビル)で展示した。

(2) 企業・自治体・教育機関での研修や講演

- ・ 令和四年2月12日(土)13:00-16:00「性の多様性と教育——実践への第一歩」(オンライン、主催:(公益財団法人)広島県男女共同参画財団)が開催され、大池真知子教授が「多様性の基礎的な考え方——とくに性の視点で」の講演を行なった。
- ・ 令和三年度の安芸高田市におけるジェンダー平等と性の多様性にかんするコンサルティングを行った。大池真知子教授は10月26日より同市の男女共同参画審議会委員長を務めている。

(3) 広島大学でのダイバーシティ推進のための取り組み

- ・ 学生向けの啓発パンフレット「性の多様性を知ろう——LGBT ってなに?」(英語版: Introduction to Diversity in Gender and Sexuality-Do You Know LGBT?)を新入学生に配布した。
- ・ 教育室の LGBT 等に関する相談窓口、ハラスメント相談室、アクセシビリティセンターと協力し、多機能トイレのピクトグラムを設置準備を進めた。
- ・ 令和三年4月ならびに10月大池真知子教授が2021年度広島大学新採用教職員研修(4月期、10月期)「性の多様性に関する理念とガイドライン」(オンライン)についての講義を実施した。

3. 令和三年度研究業績一覧

論文・著書

- Abe, K., Nakashima, K. (2020). Searching for Positive Aspects of Excessive Reassurance-Seeking. *Japanese Psychological Research*, 63(2), 95-103.
- Delakorda Kawashima, Tinka (2021). The Authenticity of the Hidden Christians' Villages in Nagasaki: Issues in Evaluation of Cultural Landscapes, *SUSTAINABILITY*, 13(4387), 202104.
- Delakorda Kawashima, Tinka (2022). The Relationless Japanese Society and the Practices of Belonging during the COVID-19 Pandemic. *ASIAN STUDIES*, 10(1), 45-68, 2022119, ISSN: 2350-4226.
- Delakorda Kawashima, Tinka (2021). “"Brezzvezna" japonska družba in prakse pripadanja v času pandemije” (The disconnected Japanese society and practices of belonging in times of the pandemic). In Jana S. Rošker (Ed.) *The covid-19 pandemic in Asia: traditional humanisms, modern alienation and the rhetorics of contemporary ideologies*, Zbirka Studia Humanitatis Asiatica Ljubljana: Znanstvena založba Filozofske fakultete, 2021, 03, Scholarly Book, Slovene, 978-961-06-0447-1. ISSN 2463-8900, 19, 45-64.
- Delakorda Kawashima, Tinka (2021). “Introductory words”. In Andrej Bekeš and Jelisa Dobovšek Sethna (Eds.) *30 YEARS OF INDEPENDENT SLOVENIA, Slovene and Japanese Perspectives* (日本とスロベニアから見たスロベニアの独立の30年), Embassy of Slovenia in Tokyo and Slovenian-Japanese Friendship Group, Tokyo. Open Access: <https://tinyurl.com/4xfdmcap>
- Delakorda Kawashima, Tinka (2021). スロベニアの対応事例—子どもと教師を支える制度的・組織的な取り組み— (Slovenia's Case Study: Institutional and Organizational Approaches to Support Children and Teachers) 広島大学教育ヴィジョン研究センター・草原和博・吉田成章 (編著) 「コロナ」から学校教育をリデザインする—公教育としての学校を捉える視点— (Redesigning School Education in a Post COVID-19 Pandemic World), 溪水社
- Froehlich, L., Tsukamoto, S., Morinaga, Y., Sakata, K., Uchida, Y., Keller, M. M., Stürmer, S., Martiny, S. E., & Trommsdorff, G. (2022). Gender Stereotypes and Expected Backlash for Female STEM Students in Germany and Japan, *Frontiers in Education*, <https://doi.org/10.3389/feduc.2021.793486>
- Furukawa, Y., Nakashima, K., Tsukawaki, R., & Morinaga, Y. (2021). Guilt as a signal informing us of a threat to our morality. *Current Psychology*, 40, 2122-2132.
- 古田弘子・櫻井里穂・セートゥング プラサード (2021). インクルーシブ教育制度への転換と特別学校の包摂—南アジア 2 カ国、スリランカとブータンに焦点をあてて— 熊本大学教育学部紀要, 70, 83-89.
- 華 雪・清末有紀・森永康子 (2022). 暗黙の性役割理論とジェンダー格差の関連 広島大学心理学研究,

21, pp 未定.

- Hiromitsu, T., Kitakaji, Y., Hara, K., & Saijo, T. (2021). What Do People Say When They Become “Future People”?—Positioning Imaginary Future Generations (IFGs) in General Rules for Good Decision-Making. *Sustainability* 13(12), 6631.
- Kanai, A., Gregory, L. A., Sakata, K., Fujimoto, T., Yamaguchi, H., Takai, J., Suzuki, A., & Jinkook, T. (2021). An International Comparison of Factors Related to Long Work Hours Japanese Psychological Research, <https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/jpr.12338>
- 河口和也 (2021). アメリカ合衆国のゲイ解放運動の表象に向けて—『真夜中のパーティ』から『ミルク』まで—, 菅野優香 (編著) 『クィア・シネマ・スタディーズ』, 30-43, 晃洋書房, 京都市
- 河口和也 (2021). セクシュアル・マイノリティをめぐる意識の変容, 『現代性教育研究ジャーナル』11月号 No. 128, 1-10.
- 河口和也 (2021). 「性の多様性」の理解—学びの解体の倫理—, 『季刊セクシュアリティ』4月号 No.101, 42-45.
- 河口和也 (2022). 「ほんとうは身近にいるはずの性的マイノリティ」, 『ひょうご人権ジャーナル』2月号, 5.
- 河口和也 (2022). 「本を読むことの快樂—クィア批評のゆくえ—」, 『ちくま』3月号 No.612, 18-19.
- 河本尚枝 (2021). 高齢中国帰国者の生活支援ニーズ—ソーシャル・キャピタルの観点から— 総合科学研究, 2, 95-108.
- 小宮あすか・岡野佑美・坂田桐子 (2021). 後悔が災害関連行動に及ぼす影響：平成 30 年 7 月豪雨に着目した検討 社会心理学研究, 37(2), 65-75.
- Liang, T., Lin, Z., & Souma, T. (2021). How Group Perception Affects What People Share and How People Feel: The Role of Entitativity and Epistemic Trust in the “Saying-Is-Believing” Effect. *Frontiers in Psychology*, 12, 728864.
- 間淵領吾・酒井千絵・古川誠 (編) (2022). 基礎社会学〔新訂第 5 版〕世界思想社
- 中村 平 (2021). (書評) 石井大智編『「小さな主語」で語る香港デモ』 週刊金曜日 (6/25) ,1334.
- 中村 平 (2022). 「台湾先住民を日本人にさせる殖民暴力とその傷跡の分有：日本のおかげと思という語りとの出会い」 坪井秀人 編 戦後日本の傷跡, 臨川書店, p.52-71.
- 中島健一郎 (2021). Corr, Philip J. (編) 中村 菜々子・古谷 嘉一郎 (監訳) パーソナリティと個人差の心理学・再入門—ブレイクスルーを生んだ 14 の研究 新曜社
- A., Nakayama (2021). Reconciling with English: An autobiography to ruminate over the different meanings that English has for us, *The Learner Development Journal*, 5, 25-39, JALT Learner Development Sig.
- 中山亜紀子・李 在鉉・丸田健太郎・仁科陽江 (2021). 聴覚障害のある労働者の職場でのコミュニケーション：人間関係の視点から 広島大学大学院人間社会科学研究科紀要(教育学研究), 2, 242-249.

- 中山亜紀子 (2022). 聴覚障害のある労働者が職場で望んでいること—Z 社の聴覚障害のある社員に対するアンケート調査の自由記述の分析から, 広島大学日本語教育学プログラム(日本語教育研究), 31, 印刷中.
- 眞野豊 (2022). 教師の言葉と権力—教員養成大学の学生を対象とした”ニセ科学”を題材とした授業の分析から 鳴門教育大学研究紀要, 37.
- 眞野豊 (2022). 森山至貴著『10代から知っておきたいあなたを閉じ込める「ずるい言葉」』 解放社会学研究, 35, 77-81.
- 森永康子・福留広大・平川真 (2022). 日本における女性の人生満足度とシステム正当化, 社会心理学研究, 37, 109-115, DOI: 10.14966/jssp.2102
- 森永康子・井手口紘子・下本紀保・那須郁未・増田百香・村上菜津美 (2022). 「ありがとう」のダークサイド:—Ksenofontov & Becker (2020) 研究2の追試— 広島大学心理学研究, 21, pp 未定.
- OIKE, Machiko (2021). Memory Book as a New Genre of Illness Writing: How a Ugandan Farming Mother Wrote about HIV. *English Studies in Africa*, Special issue on The Plague Year. 64 (1-2), 192-208. DOI 10.1080/00138398.2021.1969122
- 大上麻海・相馬敏彦 (2021). 他者志向性を伴う政治的行動が資源動員に与える影響に関する研究 福岡大学商学論叢, 65, 461-480.
- A., Sakamoto, M., Yamamoto, & N., Okada (2021). The effect of the rapid increase in online courses on educational accessibility for students with disabilities in Japanese higher education, *Proceedings of IIAI-AAI 2021*, 936-937, DOI: 10.1109/IIAI-AAI53430.2021.00171.
- 櫻井里穂 (2022). 『ダイバーシティ』とはなにか—学校文化の再構築に向けて— 教室の窓, 65, 4-7, 東京書籍.
- 櫻井里穂 (2022). 「インクルーシブ教育の受容実態 —西ブータン二都市と西日本の一地方政令都市の教員の視点を比較して—」 ブータン学研究, 5, 25-42.
- Sakurai, R. (2021). REEXAMINATION OF INCLUSIVE EDUCATION – ITS DYNAMICS, CHALLENGES, AND COMPLEXITIES: IMPLICATIONS FROM AN EMPIRICAL STUDY FROM BHUTAN AND JAPAN in "the 2020 Annual Review of Comparative and International Education, 20210818, 281-305.
- 佐藤洋子 (2021). 研究動向: ジェンダー研究の動向 年報村落社会研究, 57, 246-256.
- 白川俊之 (2021). 母親のジェンダー意識と高校生の高等教育進学・専攻分野選択 大学論集, 53, 1-17.
- 白川俊之 (2021). 子どもによる社会経済的背景の報告とその妥当性: 高校生と母親調査の追跡調査データを用いて 社会と調査 = Advances in social research, 27, 64-75.
- アダム・B・セリグマン, デヴィッド・W・モンゴメリ, 大池真知子 (2019). アダム・B・セリグマン&デヴィッド・W・モンゴメリ『人権の悲劇—リベラリズムと所属の喪失』一邦訳論文と訳者解題, 総合科学研究, 2, 125-. (Adam B. Seligman and David W. Montgomery (2019). Tragedy of Human Rights:

Liberalism and the Loss of Belonging, *Society* 56)

Shimizu, H., Takahashi, C., Koike, M., Fukui, K., & Nakashima, K. (2021). How do Changes in One's Self-Esteem Affect the Self-Esteem of Others? Japanese Psychological Research. DOI: 10.1111/jpr.123502021

恒松直美 (2022). 「国際教育交流における“Third Culture”— 留学生の日本留学目的と高校生の異文化間能力をつなぐ —」 広島県立日彰館高等学校 研究紀要, 19, 31-38.

恒松直美 (2022). Agency, autonomy, and power of international students in interactions with local society in Japan through an experiential learning project, COMPARE: A Journal of Comparative and International Education, DOI: 10.1080/0357925.2021.2017767, Taylor & Francis Online, UK.

八木真奈美・中山亜紀子・中井好男 (2021). 質的言語教育研究を考えよう—リフレクシブに他者と自己を理解するために ひつじ書房

M., Yamamoto, A., Sakamoto, & N., Okada (2021). Practice and automation of remote real-time captioning support for students with disabilities using speech recognition technology, *Proceedings of IIAI-AAI 2021*, 934-935, DOI: 10.1109/IIAI-AAI53430.2021.00170.

学会発表

Abe, N., Nakashima, K., The Process of Alexithymia to Over-adaptation in Junior and Senior High School Students, The 32nd International Congress of Psychology (Online, 2021.7.20)

Adachi, N., & Ikegami, T., How do beliefs in reproduction justifies homophobia expression., The 32th International Congress of Psychology (オンライン, 2020.07.19)[ポスター]

Delakorda Kawashima, Tinka. Virtual Roundtable "30th Anniversary of Slovenian Independence from Japanese Perspective", Moderator (Embassy of Slovenia in Tokyo, 2021.6.25)

古田弘子・櫻井里穂, インクルーシブ教育への転換における特別学校の包摂過程に関する国際比較—スリランカとブータンの事例から—, 日本比較教育学会 (オンライン, 2021.6.27)

堀田 彩・相馬敏彦・原口恭彦, フォールトラインの強さとパフォーマンスの関係における多様性風土の調整効果の検討 日本グループ・ダイナミクス学会第 67 回大会 (オンライン, 2021.9.11-9.12)

堀田 彩・相馬敏彦・原口恭彦, 上司サポートの分化と離転職意思の関係におけるサーバント・リーダーシップの調整効果の検討 産業・組織心理学会第 36 回大会 (オンライン, 2021.9.4-9.5)

川西 健二・相馬敏彦, 行政改革による運営主体の変化は, 国立大学職員の帰属意識に何をもたらしたか 日本グループ・ダイナミクス学会第 67 回大会 (オンライン, 2021.9.11-9.12)

Lee, S., Toya, A., & Nakashima, K., Shift-and-Persist Strategy and Mental Health in People with Low-SES: A Meta-Analysis, The 32nd International Congress of Psychology (Online, 2021.7.20)

Morinaga, Y. & Hirakawa, M., What is "gender equality" in Japan? College students' belief of achievement of a gender-equal society., The 14th Biennial Conference of the Asian Association of

Social Psychology (オンライン, 2021.7) [ポスター]

森永康子・平川 真, 大学生のジェンダー平等認知とジェンダー・システム正当化に関する研究, 日本心理学会第 85 回大会 (オンライン, 2021.9) [ポスター]

Morinaga, Y., Hirakawa, M., & Fukudome, K., The palliative function of system justification among women of a large gender gap country, Society for Personality and Social Psychology Annual Convention 2022 (オンライン, 2022.2.18) [ポスター]

森永康子・平川 真, 「私は差別されている」という認識は幸せに影響するのか—成人女性の人生満足度とジェンダー・システム正当化—, 日本発達心理学会第 33 回大会 (オンライン, 2022.3.6) [ポスター]

中島健一郎, 「一対多」状況での規定因を探る: 批判的思考・社会経済的地位・テスト成績に着目した実験的検討, 日本心理学会第 85 回大会 (オンライン, 2021.9.1)

中島健一郎, 「一対多」状況での他者理解が正確なのは誰か: 社会経済的地位と批判的思考に着目した実験的検討, 日本社会心理学会第 62 回大会 (オンライン, 2021.8.26)

Nishimura, Y., Shimizu, H., & Nakashima, K., Effects of Parental Attitudes on Child's Depression, Autonomy, and Carrier Consciousness: Using Parents Child Correlational Data, The 33rd Annual Convention of Psychological Science (Online, 2021.5)

中山亜紀子・八木真奈美・中井好男, 質的研究のアンラーニング—「私にとっての質的研究」へ—, 言語文化教育研究会第 8 回年次大会 (大阪府吹田市, 大阪大学, 2022.3.5)[フォーラム]

Nakayama A., The Processes We Got Out from Our Native Cultural Norms, JALT Pan-Sig (2021.5.15)

西村由貴子, 清水陽香・中島健一郎, 両親の自尊感情が子どもの心理的特性に与える影響—養育態度の媒介効果に着目して—, 日本心理学会第 85 回大会 (オンライン, 2021.9.1)

Noma, H., Nakashima, K., Adaptive Aspects of Dysfunctional Attitudes: Focus on Effects of Stress and Cognitive vulnerability, The 32nd International Congress of Psychology (Online, 2021.7.20)

野間紘久, 中島健一郎, 抑うつスキーマが学習行動および学業成績にもたらす影響—ストレスフルイベントの影響を含めて—, 日本認知・行動療法学会 47 回大会 (オンライン, 2021.10.10)

隆重・布井雅人・坂田桐子, 尊敬される同性愛者の情報が同性愛者に対する潜在的態度に及ぼす影響, 日本グループ・ダイナミクス学会第 67 回大会 (オンライン開催, 2021.9.11)

Sakai, C., The Sociologist Who Waits: Frances Donovan and Her Contribution to the Chicago School of Sociology, ISA IV Forum of Sociology (Porto Alegre, Brazil (Online), 2021.2.27)

坂田桐子, 日本はダイバーシティ社会に移行できるか, 日本社会心理学会第 62 回大会 [大会準備委員会企画シンポジウム「社会『転換』 心理学—社会が変わる, 社会を変える」話題提供] (オンライン開催, 2021.8.26)

坂田桐子, 組織におけるダイバーシティ&インクルージョン, 第 1 回日本公認心理師学会学術集会 [大会企画シンポジウム 1「ダイバーシティの推進と公認心理師」話題提供] (オンライン開催, 2021.12.12)

櫻井里穂, 「インクルーシブ教育の受容実態に関する一研究—ブータンと日本の事例から—」, 日本ブー

タン学会第 5 回大会 (オンライン, 2021.7.3)

白川俊之, 子どもは家庭の社会経済的背景を正確に答えられるのか, 2020 年度二次分析研究会課題公募型研究成果報告会 (東京大学社会科学研究所, 2021.3.15)

白川俊之, 高等教育の STEM 分野への希望・進学とジェンダー——職業期待の性差を手がかりとして, 日本教育社会学会第 73 回大会 (関西学院大学, 2021.9.11)

白川俊之, 高等教育の STEM 分野における希望と実際の進路の乖離, 2021 年度二次分析研究会課題公募型研究成果報告会 (東京大学社会科学研究所, 2022.3.22)

Shimizu, H., Nakashima, K., Does the number of friend buffer negative effect of avoidance strategy on academic performance?, The 33rd Annual Convention of Psychological Science (Online, 2021.5)

新本万里子, 出産をめぐる医療サービスの利用と課題——パプアニューギニアアラペシュ人女性の出産場所の選択をめぐって, 国際開発学会 第 32 回全国大会 (石川県金沢市, 金沢大学・オンライン開催, 2021.11.20)[口頭]

新本万里子, パプアニューギニア焼畑農耕民アベラムの月経対処と開発支援のかたち, 総合地球環境学研究所 サニテーション価値連鎖の提案—地域のヒトによりそうサニテーションのデザイン— 第 4 回女性のサニテーション研究会 (京都府京都市, 総合地球環境学研究所・ハイブリッド開催 (オンライン参加), 2022.01.26)[口頭]

新本万里子, 出産をめぐる医療サービスの利用と課題——パプアニューギニアアラペシュ人の子産場所の選択をめぐって, 第 39 回日本オセアニア学会研究大会 (東京都北区, 東京成徳大学・オンライン開催, 2022.03.17)[口頭]

M., Shinmoto, Health Service Utilization and Issues Related to Childbirth : Papua New Guinea Arapesh Women's Choice of Place of Delivery , 82nd Annual Meeting of the Society for Applied Anthropology (Salt Lake City, State of Utah, United States., Sheraton Salt Lake City Hotel, Salt Lake City, UT・ハイブリッド開催 (オンライン参加), 2022.03.22-26)[口頭]

相馬敏彦・堀田彩・白井志津子・原口恭彦, 多くの部下を抱える上司の「分け隔て」が部下に受け入れられるための信念の力; LMX 分化から組織サポートや離転職意思への影響を調整する上司の分配基準の効果 日本心理学会第 85 回大会(オンライン, 2021.9.1-9.8)

Soichi, K., Nakashima, K., Proposal and Verification of Motivation of Conformity Scale, The 32nd International Congress of Psychology (Online, 2021.7.20)

戸谷彰宏, 中島健一郎, 存在論的恐怖への対処方略における選択的反応の追試研究, 日本心理学会第 85 回大会 (オンライン, 2021.9.1)

Tsunematsu, N., "Resilience of Exchange Students in the Study Abroad Program in Japan Under the Covid-19 Pandemic", The International Academic Forum (IAFOR), The Asian Conference on Education (ACE 2021) (Online, Online, 2021.11.26)

Tsunematsu, N., "Narratives of International Students Facing the Covid-19 Pandemic: Continuation and Discontinuation of Study Abroad in Japan", 第 26 回留学生教育学会 (JAISE, Japan Association for International Student Education) 年次大会 (Online, Online, 2021.8.21)

山口彩菜・坂田桐子, リーダー経験の結果の原因帰属とリーダーシップ自己効力感との関連の検討, 日本社会心理学会第 62 回大会 (オンライン開催, 2021.8.26-27)

Yamamoto, K., Furukawa, Y., Fukui, K., Nakashima, K., Followers' expectations of new leaders: Focusing on leaders' selection procedures, The 33rd Annual Convention of Psychological Science (Online, 2021.5)

M., Yamamoto, A., Sakamoto, & N., Okada, Practice and automation of remote real-time captioning support for students with disabilities using speech recognition technology, 10th International Congress on Advanced Applied Informatics (Online, Online, 2021.7.11-16)[Poster]

山本幹雄・坂本晶子・山崎恵里・新本万里子, 配慮依頼文書のオンライン共有に関する実践報告, AHEAD JAPAN 2021 年度全国大会 (オンライン, オンライン, 2021.8.18-10.3)[口頭 (動画)]

Yazawa, A., Furukawa, Y., & Nakashima, K., Examination of Interpersonal Benefits of Critical Thinking: Relation to the Empathic Accuracy, The 32nd International Congress of Psychology (Online, 2021.7.20)

矢澤順根・古川善也・中島健一郎, ヒューリスティックスの抑制が共感の正確さに及ぼす影響, 日本心理学会第 85 回大会 (オンライン, 2021.9.1)

Xie, X., Nakashima, K., A Proposed Process from Attachment Anxiety to Physical Aggression: From the Perspective of the Escalation Theory of Domestic Violence., The 33rd Annual Convention of Psychological Science (Online, 2021.5)

Xie, X., Fukui, K., Nakashima, K., Attachment Anxiety and The Responses to Jealousy: Effects of Sense of Acceptance and Self Efficacy. The 32nd International Congress of Psychology (Online, 2021.7.20)

謝 新宇, 古川善也, 中島健一郎, 愛着不安傾向が身体的攻撃に至るプロセス ―一般化可能性の検討―, 日本社会心理学会第 62 回大会 (オンライン, 2021.8.26)

謝 新宇, 中島健一郎, 愛着傾向と親密な関係における葛藤への対処行動の関連, 日本心理学会第 85 回大会(オンライン, 2021.9.1)

講演会・研修

安達菜穂子, LGBTQ+に対する思い込みの科学 (主催 ; 福島医学会, オンライン, 2022.02.13)

デラコルダ川島ティンカ, 「持続可能な教育のための談話とコミュニケーション」, 平和教育構築への実践アプローチ (広島大学大学院人間社会科学研究科 教職開発専攻 (教職大学院) 講義, 2021.7.31)

デラコルダ川島ティンカ, 異文化理解促進プログラムの研修講師 (学外者を対象とする研修) (広島県地

域政策局国際課, 2021)

デラコルダ川島ティンカ, 「スロベニアの戦争」、「平和・原爆について、どのように学んできたか。また広島に来て、考えは変化したか」(広島女学院中学校研究会, 2022.2.19)

河口和也, 「LGBTQ+とは何か—多様性の理解に向けて—」, マイクロンメモリジャパン合同会社 プライド月間企画(主催: マイクロンメモリジャパン, 東広島市, オンライン研修, 2021.6.22, 参加人数: 400名)

河口和也, 「LGBTQ を知ろう」, 府中町 令和3年度 男女共同参画講演会(主催: 広島県府中町, 府中町, オンデマンド講演, 2021.6.1)

河口和也, 「家族から疎外される／を求める性的マイノリティ」, ジェンダー/植民主義/ヒロシマのクロス連続講座「セクシャル・マイノリティとフェミニズムの対話」(広島市, エソール広島, 2021.6.26, 参加人数: 30名)

河口和也, 「性の多様性の理解—よりよい職場対応に向けて」, 広島県消防学校 消防職員幹部教育中級幹部科 講義(主催: 広島県消防学校, 広島市, 広島県消防学校, 2021.6.29, 参加人数: 30名)

河口和也, 「フェミニズムとセクシュアリティⅡ: バトラー『ジェンダー・トラブル』」, クィア仏教学研究会第4回(主催: クィア仏教学研究会, オンライン開催, オンライン報告, 2021.7.7, 参加人数: 12名)

河口和也, 「家族から疎外される／を求める性的マイノリティ」, エソール広島 LGBT スタディーズ講座『21世紀の家族のかたち—同性婚とパートナーシップ宣誓制度から考える』(主催: エソール広島, 広島市, エソール広島, 2021.7.18, 参加人数: 40名)

河口和也, 「多様な性の理解と学校」, 広島市立三篠小学校 校内研修会(主催: 広島市立三篠小学校, 広島市, 広島市立三篠小学校, 2021.7.21, 参加人数: 40名)

河口和也, 「教育現場における LGBT の児童・生徒対応—性の多様性の理解に向けて—」, 広島市立竹屋小学校人権教育校内研修会(主催: 広島市立竹屋小学校, 広島市, 広島市立竹屋小学校, 2021.7.26, 参加人数: 50名)

河口和也, 「大学教育における LGBT 等の学生支援について」, 県立広島大学 大学教育における LGBT 等の学生支援に関する教職員研修会(主催: 県立広島大学, オンライン開催, オンライン講演, 2021.7.27, 参加人数: 300名)

河口和也, 「性の多様性と学校—LGBT 生徒の対応に向けて—」, 広島市立段原小学校 校内研修会(主催: 広島市立段原小学校, 広島市, 広島市立段原小学校, 2021.7.28, 参加人数: 40名)

河口和也, 「LGBT 児童生徒に対応する基礎知識」+ 「LGBT 児童生徒が直面する具体的諸問題と対応方法」, 広島修道大学 教員免許更新講習(主催: 広島修道大学, 広島市, 広島修道大学, 2021.8.2, 参加人数: 100名)

河口和也, 「性の多様性と学校教育」, 広島市立口田小学校 校内研修会(主催: 広島市立口田小学校, 広島市, 広島市立口田小学校, 2021.8.5, 参加人数: 40名)

河口和也,「L G B T の理解—基本的な対応について—」, 令和 3 年度 広島県市町村保健活動協議会保健師部会研修(主催: 広島県市町村保健活動協議会, オンライン開催, オンライン講演, 2021.8.11, 参加人数: 100 名)

河口和也,「性の多様性の理解に向けて—LGBT と家族—」, ローエイシア家族法部会広島支部研修会(主催: ローエイシア家族法部会, 広島市, 広島弁護士会館, 2021.8.17, 参加人数: 40 名)

河口和也,「教育現場における LGBT の生徒対応—性の多様性の理解に向けて—」, 広陵高等学校 教職員研修会(主催: 広陵高等学校, 広島市, 広陵高等学校, 2021.8.27, 参加人数: 60 名)

河口和也,「性の多様性の理解に向けて」, 広島工業大学高等学校令和 3 年度 3 年生健康教育(主催: 広島工業大学高等学校, 広島市, 広島工業大学高等学校, 2021.10.4, 参加人数: 300 名)

河口和也,「性の多様性の理解に向けて」, 安芸太田町 青少年問題研修会(主催: 広島県地域女性団体連絡協議会, 広島県安芸太田町, 川・森・文化交流センター, 2021.10.18, 参加人数: 50 名)

河口和也,「教育現場における LGBT の生徒対応—性の多様性の理解に向けて—」, 広島県立三次中学校・高等学校 教職員研修会(主催: 広島県立三次中学校・高等学校, 三次市, 広島県立三次中学校・高等学校, 2021.10.18, 参加人数: 80 名)

河口和也,「映画『グリーンブック』に見るダイバーシティ」, 福山人権啓発企業連絡会(主催: 福山人権啓発企業連絡会, 福山市, 福山駅前シネマモード, 2021.10.19, 参加人数: 50 名)

河口和也,「誰もが生きやすい社会をめざして—パートナーシップ宣誓制度のもたらすもの—」, 東広島市 令和 3 年度 人権教育・人権啓発指導者研修会(主催: 東広島市, 東広島市, 東広島芸術文化ホールくらら 大ホール, 2021.10.25, 参加人数: 200 名)

河口和也,「性の多様性の理解に向けて」, 安芸高田市 職員研修(主催: 安芸高田市, 安芸高田市, 安芸高田市市民文化センターホール, 2021.11.2, 参加人数: 20 名)

河口和也,「LGBTQ+の現在—性の多様性の理解に向けて—」, 多田愉可先生講義(主催: 広島文化学園大学, 広島市, 広島文化学園大学, 2021.11.10, 参加人数: 60 名)

河口和也,「LGBTQ+の理解に向けて—多様で公正な採用選考のために—」, 令和 3 年度採用担当者と公正な採用選考推進員を対象とした人権問題研修会(主催: 広島労働局, 広島市, 西区民文化センターホール, 2021.11.16, 参加人数: 300 名)

河口和也,「いろいろな“私たちの性”」, 広島市立白島小学校 心の参観日 5 年生対象授業 「みんながってみんないい」(主催: 広島市立白島小学校, 広島市, 広島市立白島小学校, 2021.12.1, 参加人数: 150 名)

河口和也,「映画 『性別が、ない!』監督渡辺正悟+河口和也 トークショー」, ヒューマンフェスタ 2021 ひろしま〜こころカラフル、みらいピースフル〜(主催: 広島県, オンライン開催, オンデマンド配信, 2021.12.4)

河口和也,「性の多様性と学校—LGBT の児童・生徒の対応に向けて—」, 広島市立向洋新町小学校 人権教育研修会(主催: 広島市立向洋新町小学校, 広島市, 広島市立向洋新町小学校, 2021.12.13, 参加人

数：60名)

河口和也、「性の多様性の理解に向けて—パートナーシップ宣誓制度のもたらすもの—」，広島県監査委員事務局+広島県会計局合同開催（主催：広島県監査委員事務局+広島県会計局合同開催，オンライン研修，オンデマンド研修，2022.1.1）

河口和也、「教育現場における LGBT の生徒対応—性の多様性の理解に向けて—」，広島みらい創生高等学校 教職員研修会（主催：広島みらい創生高等学校，広島市，広島みらい創生高等学校，2022.2.9，参加人数：100名）

河口和也、「性の多様性の理解—よりよい職場対応に向けて—」，令和3年度廿日市市人権職員研修（主催：廿日市市，オンライン開催，オンライン開催+オンデマンド研修，2022.3.10，参加人数：100名）

河口和也、「性の多様性の理解—LGBTQ+の基礎とパートナーシップ制度—」，江田島市職員人権問題研修会（主催：江田島市，江田島市，江田島市わくわくセンター，2022.3.24，参加人数：50名）

河本尚枝，人々はなぜ満州へ渡ったか〜2つの世羅村開拓団と報国農場，第64回大田庄歴史館企画展示会 平和への証言展 Part4 関連講演会（主催：世羅町教育委員会，広島県世羅郡世羅町，せら文化センター，2021.10.23，参加人数70名）

眞野豊，多様な”私たちの性”と人権，公開セミナー（主催者：ひろしま女性大学福山校同窓会，広島県府中市，府中市保健福祉総合センター，2021.4.24，参加人数80名）

眞野豊，多様な性の視点でつくる学校教育，職員研修会（主催：広島市立大塚小学校，オンライン，2021.7.30，参加者21名）

眞野豊，多様な”私たちの性”と人権，職員研修会（主催：広島県立尾道北高等学校，広島県尾道市，広島県立尾道北高等学校，2021.8.4，参加者31名）

眞野豊，多様な性の視点でつくる学校教育，新宮町学同部「全員研修会」（主催：新宮町人権・同和教育推進協議会学校人権・同和教育部会，福岡県粕屋郡新宮町，新宮中学校，2021.8.5，参加者約300名）

眞野豊，多様な性の視点でつくる学校教育，人権教育研修会（人権感覚を高める指導の工夫）（主催：広島市教育センター，オンライン，2021.9.10，参加人数50名）

眞野豊，多様な性の視点でつくる学校教育，校内研修会（主催：広島市立井原小学校，オンライン，2021.8.30）

眞野豊，多様な”私たちの性”と人権，令和3年度児童生徒対象人権教育啓発講演会事業講演（主催：徳島県立人権教育推進センター，徳島県海部郡，伊座利小学校，2021.9.27，参加者24名）

眞野豊，多様な”私たちの性”と人権，総合的な学習の時間における人権学習（主催：糸島市立前原西中学校，オンライン，2021.10.15，参加者34名）

眞野豊，多様な”私たちの性”と人権，トップリーダーセミナー（主催：徳島県立富岡西高等学校，徳島県阿南市，徳島県立富岡西高等学校，2021.11.10，参加者50名）

眞野豊，セクシュアリティと人権，合理的配慮に関する教職員研修会（主催：国立大学法人鳴門教育大学，徳島県鳴門市，国立大学法人鳴門教育大学，2021.11.24，参加者96名）

- 眞野豊, 多様な性の視点でつくる学校教育, オンラインセミナー (主催: 長崎大学学生サークル Partners' Shoes, オンライン, 2021.11.26)
- 眞野豊, セクシュアリティと人権と人権, 令和 3 年度人権を考えるみんなのつどい (主催: 大津町, 大津町生涯学習センター, 2021.12.4)
- 眞野豊, 日本の学校教育と性, 国際シンポジウム「性／ジェンダーの平等教育: 台湾と日本の義務教育現場から」 (主催: 明治大学現代中国研究所, オンライン, 2021.12.12, 参加者 100 名)
- 眞野豊, 多様な性の視点でつくる学校教育, 安芸高田市学校保健会養護教諭部会研修会 (主催: 安芸高田市学校保健会, オンライン, 2021.1.28)
- 眞野豊, 多様な性の視点でつくる学校教育, ゆいばーとオンラインセミナー (主催: 広島市男女共同参画推進センター, オンライン, 2021.1.30)
- 眞野豊, 多様な性の視点から考える「良いコミュニケーション・インクルーシブ教育・統制と排除」, 「多様性の教育学」構築に向けた対話と研究のインクルージョン (主催: 異文化間教育学会, オンライン, 2021.3.11)
- 森永康子, ジェンダー・バイアスを生む心のしくみ, 日本学術会議公開シンポジウム ジェンダード・イノベーション (主催: 日本学術会議, オンライン, 2021.8.18)
- 森永康子, ジェンダー格差を生む心のしくみ, 女性活躍推進セミナー (主催: 高知大学, オンライン, 2021.10.28)
- 森永康子, ジェンダー格差を生む心のしくみ, 男女平等教育研修会 (主催: 福岡市役所, オンライン, 2021.11.17)
- 森永康子, ジェンダー・ステレオタイプとマイクロアグレッション—社会心理学の研究現場から—, 国際シンポジウム「差別と心理学: マイクロアグレッションを理解し, 日本社会の変革につなげる」 (主催: 上智大学グローバル・コンサーン研究所, オンライン, 2021.12.4)
- 森永康子, 格差を受け入れるこころのしくみ—ジェンダーと偏見・差別—, 人権講演会 (主催: 三原市, オンライン, 2021.12.16)
- 森永康子, ジェンダー格差と女性の幸福感, 今, 改めて学ぶジェンダーとキャリア (主催: 日本キャリア教育学会 近畿/中国・四国地区部会, オンライン, 2022.2.20)
- 長坂格, イタリアにおけるフィリピン系第 1.5 世代移住者たちのトランスナショナリズム: イタリア、フィリピンそして他国に広がる實際上、想像上の社会圏, 第 55 回日本文化人類学会研究大会 (オンライン開催, オンライン開催, 2021.5.30)
- Nagasaka I., On Migration, Family and Gender: Views from Asia, 16th Asia-Pacific Sociological Association Conference 2021 (Manila, オンライン開催, 2021.11.15)
- 長坂格, 移住生活のなかでの家族とセクシャリティ—パリの性的少数者であるフィリピン人移住者のライフヒストリー, 国立民族学博物館特別研究プレシンポジウム「不確実な時代の家族とケア」 (大阪, 国立民族学博物館, 2021.3.5)

中村 平, 台湾先住民を日本人にさせる殖民暴力とその傷跡の分有：日本のおかげと恩という語りとの出会い, 国際日本文化研究センター共同研究会「戦後日本の傷跡」(パネル：戦後日本と台湾の傷跡)(国際日本文化研究センター, 京都, 2021.12.18.)

中村 平, 記号化される台湾先住民：日本殖民主義の認識論と透明な殖民者日本人, 記号化される先住民／女性／子ども(北海道大学アイヌ・先住民研究センター, 札幌市, 2021.10.10.)

中村 平, 「日本軍兵士二・三世のトラウマのオートエスノグラフィ：『PTSD の復員日本兵と暮らした家族が語り合う会』と私の運動から」, 第3回オートエスノグラフィ研究会(2021.9.7)

中村 平, 司会・コーディネーター, ジェンダーと植民主義 第7回連続講座「<この世界の片隅に>現象を読み解くためのレッスン」(エソール広島, 広島市, 2021.7.25)

中山亜紀子, 人生の物語と言語学習ー「自分らしさ」という視点からー, 教員免許講習(広島大学, 2021.8.4)

大池真知子, LGBT スタディーズ「性の多様性と教育ー実践への第一歩」講演者「多様性の基礎的な考え方ーとくに性の視点で」(主催：(公益財団法人) 広島県男女共同参画財団, ZOOM, 2022.2.12)

坂本晶子, 支援者の育成と ICT 活用, 令和3年度障害学生支援実務者育成研修会(基礎プログラム)(主催：日本学生支援機構, オンライン, 2021.9.21-22, 参加人数 203 名)

坂田桐子, ダイバーシティとは何か(主催：(株)ウォーターエージェンシー, 広島市南区向洋沖町 1-1 太田川流域下水道東部浄化センター内, 2022.2.18, 参加人数約 30 名)

坂田桐子, チームにおけるリーダーシップとメンバーシップ, 看護管理者研修「看護マネジメントの基礎」(主催：広島県看護協会, 広島, 広島県看護協会, 2021.12.13)

坂田桐子, チームにおけるリーダーシップとメンバーシップ, 看護管理者研修「看護マネジメントの基礎」(主催：広島県看護協会, 福山, オンライン開催, 2021.9.13)

坂田桐子, リーダーシップとメンバーシップ, 2021 年度ファーストレベル教育課程(主催：広島大学病院看護実践教育研修センター, 広島, オンライン開催, 2021.9.25)

坂田桐子, リーダーシップ 副看護師長新任研修会(主催：独立行政法人国立病院機構中国四国グループ, 独立行政法人国立病院機構中国四国グループ, オンライン開催, 2021.6.11)

佐藤洋子, 地域に暮らす私たちとジェンダー平等, スマイリーハート人権講座(主催：高知県南国市, 南国市上下水道局, 高知県南国市, 2021.10.29, 参加人数 35 名)

恒松直美, 日彰館高校「おもてなし国際交流会」, 日彰館高等学校「おもてなしプラン」行事における「おもてなし国際交流会」(主催：日彰館高等学校, 日彰館高等学校&オンライン, 2021.11.4, 参加人数約 250 名)

恒松直美, 「グローバル社会・大学・地域を結ぶ～異文化との接触に備えて～」(英語・日本語で開講), 広島大学公開講座(主催：広島大学, オンライン, 2021.6.16&23, 参加人数 30 名)

恒松直美, 「大学国際化・異文化間理解」, 夏季広島大学日本語日本文化特別研修(台湾)(主催：広島大学森戸国際高等教育学院, オンライン, 2021.6.29, 参加人数 6 名)

恒松直美, 「大学国際化と異文化間理解」, 宇部フロンティア大学附属香川高校 広島大学出張講義 (主催: 大学院人間社会科学研究科, オンライン, 2021.7.15, 参加人数 15 名)

恒松直美, 「大学国際化・異文化間理解～国際的に活躍する研究者を目指して～ (英語・日本語)」, 広島大学付属高等学校 FS (Frontier Science) 講演 (主催: 広島大学附属高等学校, 対面・オンライン, 2021.10.18, 参加人数 200 名)

恒松直美, 「大学国際化・異文化間理解」, 冬季広島大学日本語日本文化特別研修 (非漢字圏) (主催: 広島大学森戸国際高等教育学院, オンライン, 2022.1.20, 参加人数 7 名)

恒松直美, 「大学国際化・異文化間理解」 (主催: 冬季広島大学日本語日本文化特別研修 (台湾)), 広島大学森戸国際高等教育学院, オンライン, 2022.2.1, 参加人数 11 名)

恒松直美, 「大学国際化・異文化間理解」, 冬季広島大学日本語日本文化特別研修 (中国) (主催: 広島大学森戸国際高等教育学院, オンライン, 2022.2.25, 参加人数 210 名)

恒松直美, 「異文化間コミュニケーション」 ”Intercultural Communication” (主催: 広島県立日彰館高等学校 (外部講師による授業「英語表現 I」), 日彰館高等学校, 対面・オンライン, 2022.3.16, 参加人数 60 名)

山本幹雄, 大学在学中の支援, 広島県令和 3 年度 発達障害基礎研修 (主催: 広島県発達障害者支援センター, オンライン, 2021.7.6, 参加人数 200 名)

山本幹雄, 支援の流れと教職員の役割・相談体制, 令和 3 年度障害学生支援実務者育成研修会 (基礎プログラム) (主催: 日本学生支援機構, オンライン, 2021.9.21-22, 参加人数 203 名)

山本幹雄, 学内ネットワークの構築, 令和 3 年度障害学生支援実務者育成研修会 (応用プログラム) (主催: 日本学生支援機構, オンライン, 2021.12.13-14, 参加人数 58 名)

研究費・外部資金

河口和也 (研究代表者), セクシュアル・マイノリティをめぐる意識の変容と施策に関する研究, 科学研究費補助金, 基盤研究 (A), 2018.4.1~2023.3.31 (43030 千円)

河本尚枝 (研究代表者), 日系高齢マイノリティの「その人らしい暮らし」を支援するための基礎研究, 科学研究費補助金, 基盤研究 (C), 2018.4.1~2023.3.31 (3900 千円)

金 宰煜 (研究代表者), トランスナショナル企業のイノベーションと組織間マネジメントシステムの適合性の研究, 科学研究費助成事業, 基盤研究 (C), 2019.4.1~2023.3.31 (4160 千円)

金 宰煜 (研究分担者), 観光目的地の競争優位性: 訪日客の増加を契機とする DMO マネジャーの役割の変容, 科学研究費助成事業, 基盤研究 (B), 2019.4.1~2022.3.31 (11310 千円)

金 宰煜 (研究代表者), 日韓企業の組織文化の相違が経営意思決定行動に与える影響, メルコ学術振興財団, 研究助成 (A), 2019.4.1~2022.3.31 (600 千円)

北梶陽子 (研究代表者), 多様性の存在する社会における話し合いの共通基盤の形成過程に関する検討, 科学研究費補助金 (若手 B), 2017.4.1~2022.3.31 (3100 千円)

北梶陽子 (研究代表者), 多様性の存在する社会における集団を超えた協力と共通の基盤形成プロセス (若手研究), 2021.4.1~2025.3.31 (2900 千円)

北梶陽子 (研究分担者), 将来世代の視点取得によるフューチャー・アセスメント手法の基盤構築とその応用 (基盤 B), 2021.4.1~2024.3.31 (400 千円)

北梶陽子 (研究代表者), 情報共有 共通の基盤, 科学技術融合振興財団調査研究助成, 2020.3.1~2022.2.28 (660 千円)

北梶陽子 (研究代表者), 入れ子型の社会的ジレンマゲームを用いた異なる集団における罰の効果の検討, 科学技術融合振興財団調査研究助成, 2022.3.1~2024.2.29 (1200 千円)

森永康子 (研究代表者), 女性のキャリア選択とジェンダー格差維持に関する社会心理学的研究, 科学研究費, 基盤研究 (C), 2021.4.1~2024.3.31 (3900 千円)

森永康子 (共同研究者), ダイバーシティ社会における包摂性概念の精緻化とその機能の検討, 科学研究費, 基盤研究 (B), 研究代表者: 坂田桐子 (広島大学), 2021.4.1~2025.3.31 (12,220 千円)

長坂格 (研究代表者), 移民政策への国家誌的アプローチの構築—翻訳者としての行政職員に注目して, 科学研究費補助金, 挑戦的研究 (萌芽), 2021.7.9~2023.3.31 (6370 千円)

長坂格 (研究代表者), パンデミック下の移住労働者のモビリティ・表象・関係性に関する国際比較研究, 科学研究費補助金, 基盤研究 (B), 2021.4.1~2024.3.31 (17290 千円)

中島健一郎 (研究代表者), 集団の中での心を感じ取る: 「対集団」における生徒理解とその介入, 科学研究費補助金, 基盤研究 (C), 2018.4.1~2022.3.31 (4160 千円)

中島健一郎 (共同研究者), 学級規模が学力, 学習意欲及び社会性の経年変化に与える影響に関するパネル調査研究, 学研究費補助金, 基盤研究 (A), 研究代表者: 山森 光陽 (国立教育政策研究所), 2017.4.1~2022.3.31 (37960 千円)

大池真知子 (研究代表者), アフリカの小説にみる女同士の親密性, 科学研究費補助金, 基盤研究 (C), 2018.4.1~2023.3.31 (4290 千円)

酒井千絵 (研究代表者), シカゴ学派社会学における観察する／観察される女性: 女性によるモノグラフの分析から, 科学研究費補助金, 基盤研究 (C), 2019.4.1~2023.3.31 (4420 千円)

坂田桐子 (研究代表者), ダイバーシティ社会における包摂性概念の精緻化とその機能の検討, 科学研究費補助金, 基盤研究 (B), 2021.4.1~2025.3.31 (12220 千円)

佐藤洋子 (研究代表者), 「女性活躍」の下での林業における「女の仕事」, 科学研究費補助金, 若手研究, 2020.4.1~2024.3.31 (3900 千円)

佐藤洋子 (共同研究者), 女性農林漁業者の社会参画をめぐる地域の「壁」に関する経験的研究, 科学研究費補助金, 基盤研究 (B), 研究代表者: 藤井和佐 (岡山大学), 2018.4.1~2022.3.31 (15,210 千円)

佐藤洋子 (共同研究者), 地方社会の解体的危機に抗する<地域生活文化圏>の展開と課題, 科学研究費補助金, 基盤研究 (C), 研究代表者: 西村雄郎 (大谷大学), 2020.4.1~2023.3.31 (16,770 千円)

白川俊之 (研究代表者), 高等教育の STEM 分野における女子の希少性に関する計量社会学的研究, 日本

学術振興会 科学研究費助成事業, 若手研究, 2020.4.1~2023.3.31 (1,820 千円)

白川俊之 (共同研究者), 学校卒業後の若年層の就業・家族形成に関する追跡調査, 日本学術振興会 科学研究費助成事業, 基盤研究 (A), 研究代表者; 中澤 渉 (立教大学), 2019.4.1~2024.3.31 (37,310 千円)

白川俊之 (共同研究者), 高校生の進路選択と生活意識に関する実証的研究: 学校パネル調査による長期変動の把握, 日本学術振興会 科学研究費助成事業, 基盤研究 (B), 研究代表者; 尾嶋 史章 (同志社大学), 2020.4.1~2024.3.31 (16,510 千円)

新本万里子 (研究代表者), 生理用品の受容によるケガレ観の変容に関する文化人類学的研究, 科学研究費補助金, 基盤研究 (C), 2017.4.1~2022.3.31 (4290 千円)

新本万里子 (研究代表者), パプアニューギニア無医地区におけるヘルスカバレッジ向上に資する医療サービスの解明, 科学研究費補助金, 基盤研究 (B), 研究代表者: 塚原高広 (東京大学), 2019.4.1~2022.3.31 (17160 千円)

新本万里子 (研究分担者), 生涯を通したヒト・モノの関係性の生成と変化に関する人類学的研究, 科学研究費補助金, 学術変革領域研究 (A), 研究代表者: 倉田誠 (東京医科大学), 2020.11.19~2025.3.31 (38480 千円)

新本万里子 (研究分担者), パプアニューギニアにおける気候変動適応についての文理融合的共同研究, 科学研究費補助金, 挑戦的研究 (開拓), 研究代表者: 川崎 一平 (東海大学), 2020.7.30~2023.3.31 (21580 千円)

山本幹雄 (研究代表者), AICT を活用した合理的配慮の自動化・コモディティ化研究, 科学研究費補助金, 基盤研究 (C), 2020.4.1~2023.3.31 (2340 千円)

社会連携・賞・その他 (自治体委員・イベントアドバイザー等)

デラコルダ川島ティンカ, 筑波大学非常勤講師 (2021.10)

河口和也, 広島県男女共同参画財団エソール広島 LGBT 相談関連顧問 (2018.6~)

河口和也, 広島県府中市 男女共同参画プラン (第3次) 策定協議会委員 (2021.8~)

河口和也, 日本解放社会学会 理事 (2002.4~)

河口和也, 日本社会学会 専門委員 (2022.1~)

金 宰煜, Asia-Pacific Management Accounting Association 理事

金 宰煜, 広島大学消費生活協同組合 理事

金 宰煜, 和歌山大学国際観光学研究センター 客員フェロー

北梶陽子, 日本シミュレーション&ゲーミング学会理事, 事務局, 編集委員幹事, 中長期タスクフォース委員兼幹事

眞野豊, 前期「道徳の理論及び指導法」におけるゲスト講義, 芝浦工業大学 (2021.5.31)

眞野豊, 米子市立福米西小学校校内授業研究会における指導助言, 米子市立福米西小学校 (2021.10.20)

眞野豊, 後期「道徳の理論及び指導法」におけるゲスト講義, 芝浦工業大学 (2021.11.15)

眞野豊, 『指導参考資料（教職員用）【改訂版】誰もが自分らしく輝くために～多様な性のあり方と人権～』の監修, 鳥取県教育委員会 (2022.3)

森永康子, 広島県個人情報保護審議会委員 (2017.4-2023.3)

中村 平, 「在外被爆者を含んだ被爆体験とその継承：豊永恵三郎さんの運動 第2回 在外被爆者問題・韓国人原爆犠牲者慰霊碑の経緯・ヒロシマの課題」, 広島大学大学院人間社会科学研究科設立記念セミナー（広島大学比較日本文化学プロジェクト研究センター, 2022.2.19）

中村 平, 「在外被爆者を含んだ被爆体験とその継承：豊永恵三郎さんの運動 第1回豊永さんの被爆体験と「ヒロシマを語る会」、被爆体験の継承」, 広島大学大学院人間社会科学研究科設立記念セミナー（オンライン, 2022.1.30）

中島健一郎, 日本グループ・ダイナミックス学会第68回大会優秀学会発表賞, 資源不足がゼロサム信念を介して内集団の範囲に及ぼす影響—新入社員数を決めるという文脈を用いたシナリオ実験—（日本グループ・ダイナミックス学会, 2021.9.17）

中島健一郎, 日本グループダイナミックス学会編集担当常任知事（副編集長）（日本グループダイナミックス学会, 2021年04月～2023年03月）

中島健一郎, 令和3年度安全運転管理者等法定講習, 令和3年度安全運転管理者等法定講習, 講師（一般社団法人広島県安全運転管理協議会, 2021.7.28）

中島健一郎, 令和3年度安全運転管理者等法定講習, 令和3年度安全運転管理者等法定講習, 講師（一般社団法人広島県安全運転管理協議会, 2021.7.7）

中島健一郎, 令和3年度安全運転管理者等法定講習, 令和3年度安全運転管理者等法定講習, 講師（一般社団法人広島県安全運転管理協議会, 2021.6.23）

大池真知子, 安芸高田市男女共同参画推進審議会 委員長 (2021.10.26～2023.10.25)

大池真知子, 広島県看護職員確保対策協議会 委員 (2021.10.1～2023.9.30)

酒井千絵, 大阪府豊中市・外国人市民会議委員選考委員, 大阪府豊中市 (2021.5)

坂田桐子, 東広島市男女共同参画推進審議会 会長

坂田桐子, 日本グループ・ダイナミックス学会常任理事（機関誌編集委員長）

坂本晶子, 日本学生支援機構令和3年度障害学生支援実務者育成研修・技術助言者, オンライン (2021.4.1～2022.3.31)

Sakurai, R., & Furuta, H., "Exploring the role of special schools in providing inclusive education in Bhutan and Sri Lanka" international seminar on inclusive education, 国際セミナー（ウェビナー）主催 (2022.3.7)

Sakurai, R., Opening remarks for the international seminar entitled, "Exploring the role of special schools in providing inclusive education in Bhutan and Sri Lanka" (2022.3.7)

櫻井里穂, 共生社会コミュニケーション検定試験合格 (2022年3月)

佐藤洋子, 高知県農村女性リーダー認定委員会委員 (2021.6～2022.3)

白川俊之, 日本学術会議公開シンポジウム ジェンダード・イノベーション (Gendered Innovations) ～一人ひとりが主役の研究開発が新しい未来を拓く～, パネリスト (日本学術会議第三部, 日本学術会議中国・四国地区会議, 日本学術会議科学者委員会男女共同参画分科会, 国立大学法人広島大学, 2021.8.18)

恒松直美, 広島県立日彰館高等学校, 「異文化理解教育推進委員」(2021 年度)

恒松直美, 広島大学附属高等学校, 「スーパーサイエンスハイスクール」研究協力委員 (2021 年度)

恒松直美, 広島大学, 「グローバル・インターンシップ」地域公開国際セミナー (2021.12.24)

恒松直美, 広島大学, Glocal Internship 実習「広島大学短期交換留学プログラム (HUSA) 留学生インターン呉市立倉橋中学校との国際交流会」(2022.1.21)

山本幹雄, 日本学生支援機構障害学生支援委員会・委員, オンライン (2021.4.1~2022.3.31)

山本幹雄, 日本学生支援機構令和 3 年度障害学生支援実務者育成研修企画協力者, オンライン (2021.4.1~2022.3.31)

山本幹雄, アクセシビリティリーダー育成協議会副会長, オンライン (2021.4.1~2022.3.31)

山本幹雄, アクセシビリティリーダー育成協議会教育課程・認定試験ワーキング長, オンライン (2021.4.1~2022.3.31)

山本幹雄, 教育のユニバーサルデザイン化推進ネットワーク会長, オンライン (2021.4.1~2022.3.31)

研究パートナー組織募集

当センターでは、女性の活躍促進や男女共同参画、多文化共生等々の取組を阻害する要因を解明するとともに、取組の効果を向上させる方策を考案し、ダイバーシティ・アンド・インクルージョン推進のための実証研究に取り組んでいます。このような研究を進めるためには、企業をはじめとする民間団体や地方公共団体等の方々の協力が欠かせません。

ダイバーシティ・アンド・インクルージョン推進に関心をお持ちで、共に研究を進めていただける組織の方々を募集しております。

広島大学 ダイバーシティ研究センター
Hiroshima University
Research Center for Diversity and Inclusion

739-8524
広島県東広島市鏡山1-1-1
email: diversity-center@hiroshima-u.ac.jp
Web: <https://www.hiroshima-u.ac.jp/diversity>